

表 - 1 野生生物への影響に関する報告

生物		場所	影響	推定される原因物質	報告した研究者等
貝類	イボニシ	日本の海岸	雄性化、個体数の減少	有機スズ化合物	Horiguchi et al. (1994)
魚類	ニジマス	英国の河川	雌性化、個体数の減少	ノニルフェノール、人畜由来女性ホルモン * 断定されず	英国環境庁 (1995、1996)
	ローチ (鯉の一種)	英国の河川	雌雄同体化	ノニルフェノール、人畜由来女性ホルモン * 断定されず	英国環境庁 (1995、1996)
	サケ	米国の五大湖	甲状腺過形成、個体数減少	不明	Leatherland (1992)
爬虫類	ワニ	米フロリダ州の湖	オスのペニスの矮小化、卵の孵化率低下、個体数減少	湖内に流入した DDT 等有機塩素系農薬	Guillette et al. (1994)
鳥類	カモメ	米国の五大湖	雌性化、甲状腺の腫瘍	DDT、PCB * 断定されず	Fry et al (1987) Moccia et al. (1986)
	メキシコアジサイ	米国ミシガン湖	卵の孵化率の低下	DDT、PCB * 断定されず	Kubiak (1989)
哺乳類	アザラシ	オランダ	個体数の減少、免疫機能の低下	PCB	Reijnders (1986)
	シロイルカ	カナダ	個体数の減少、免疫機能の低下	PCB	De Guise et al. (1995)
	ピューマ	米国	精巣停留、精子数減少	不明	Facemire et al. (1995)
	ヒツジ	オーストラリア (1940年代)	死産の多発、奇形の発生	植物エストロジェン (クローバー由来)	Bennetts (1946)

備考 引用文献は「外因性内分泌攪乱化学物質問題に関する研究班中間報告書」及び「化学物質と生態毒性」(若林 明子 著)による。